

## CONTENTS

### 特集／音楽文化の振興

巻頭言	21世紀、そして新しいミレニアムを前に 音楽文化の振興について思う	海老澤 敏	4
座談会	日本の音楽文化を考える 日下部禎代子/高萩保治/團伊玖磨/安田祥子/霜鳥秋則(司会)		6
資料	平成8年度 「国際音楽の日」記念事業		16

### 連載

●随想／感動の記憶	草刈民代	18
●地域からの文化発信／博物館・美術館紹介⑩	高知県立美術館	20
●後世に残そう我が県の文化財⑩／熊本県	熊本城跡、熊本城、通潤橋	23
●芸術文化活動でまちづくり⑦	長野県駒ヶ根市「アーティスト・イン・レジデンスinこまがね」	26
●著作権法講座Q&A／18		29

### 特別記事

○阪神・淡路大震災被災文化財救援事業報告 (財)文化財保護振興財団	30
-----------------------------------	----

### ACA(Agency for Cultural Affairs)NEWS

・平成8年度 国際民俗芸能フェスティバル	32
・平成8年度(第51回) 芸術祭主催公演一覧	33
・平成8年度 文化のまちづくり事業決定一覧	34

### イベント案内

・「第43回 日本伝統工芸展」／41	
・東京国立近代美術館「90年代の韓国美術から」／42	
・東京国立近代美術館工芸館「磁器の表現」／43	
・東京国立近代美術館フィルムセンター「シネマの冒険」／44	
・京都国立近代美術館「テキスタイルの冒険」／45	
・芸術文化振興基金ニュース／46	
・10月の国立劇場／47	
・表紙解説／編集後記／48	

## 平

成七年一月一七日、阪神・淡路地区を襲った大震災の災禍は、この地区の文化財にも未曾有の被害を与えた。

当財団では、早速、兵庫県、大阪府並びに京都府の教育委員会と連携を取り、被害状況の調査を行うと共に、文化庁文化財鑑査官を中心に各担当の方々と協議、民間団体として協力できる救援策について検討した結果、当面文化庁の提唱により設置された「阪神・淡路大震災文化財等救援委員会」の行う文化財レスキュー事業に活動資金を提供することにした。並行して、調査した被災文化財資料をもとに、朝日新聞社の協力を得て平成七年六月一五日期刊・全国版に被災文化財一覧を掲載、遠山敦子文化庁長官（当時）と平山郁夫財団理事長の呼びかけによる募金運動を展開した。被災文化財救援を目的としたこのキャンペーンは、大変な反響を呼び、各地のサークル、

団体あるいは個人から寄付が寄せられた。この段階で財団の理事・評議員の属する企業にも募金の協力を呼びかけた。当初は、せいぜい一か月も継続すれば、と思っていたが、反響は意外に大きく、小学生からの募金も寄せられるなど、本年三月末締切りまで募金は途切れることなく九か月にも及んだ。併せて財団広報誌『絲綢之路』一八号（六月発行）に被災文化財一覧を掲載し啓発を図った。他方、財団の事業委員会（文化財の保存に携わる一名の専門家により構成）で平成七年度における財団事業の取組み方を審議し、通常行っている各種助成事業のうち、全国教育委員会関連の文化財保存修復助成経費の全額を被災文化財の救援に充当することを決め、理事会の承認を得た。この方針を全国教育委員会に伝達・同意を得ると共に、兵庫県、大阪府及び京都府の三府県に限定し救援事業を展開したが、基本的には、国指定文化財は助成から除外した。特に留意したのは、被災文化財のうち、何を助成対象に選定するかを決めることであつたが、現地の文化財行政の立場を尊重することを第一義に考え、関係の府県教育委員会との協議を重ねた。その結果、対象物件の選定はすべて現地の教育委員会文化財担当課に一任することとしたが、このことは、現地行政サイドにとって大変有効な措置であつたと自認している。

平成八年三月、募金活動は終了、全国から寄せられた募金は三九六件に及び、総額三、四一九万六、九五四円となつた。この寄付金の使途については協議の上、兵庫県の被災文化財に限定して助成することとし、文化財保存修復助成で行った対応と同様、県教育委員会に候補物件の推薦を依頼した。今回は特に神戸市教育委員会からの要請により景観形成重要建造物に対する助成も含まれた。こうした経緯を経て、去る五月二九日(水)に文化庁長官室に於いて、兵庫県に対し募金による寄付金の目録授与を行つた。兵庫県からは、近藤教育次長、山田社会教育・文化財課長、村上主査の三氏、文化庁からは吉田文化庁長官、崎谷文化財保護部長、三輪文化財鑑査官、水野伝統文化課長が、財団からは平山理事長、西川理事(事業委員長)、谷専務理事及び事務局職員が列席、文化庁長官を立会人として、平山理事長から代理受領者である兵庫県教育委員会近藤教育次長に対し目録の贈呈が行われた。

なお、財団は、阪神・淡路大震災による文化財の被害と復旧状況に関わる報告をまとめることが重要と考え、兵庫県教育委員会と協議し、現状と今後の展望を語り継ぐための調査報告書として『阪神・淡路大震災による文化財の被害と復旧』（仮称）の刊行を計画、必要経費は財団が負担することとした。

# 阪神・淡路大震災 被災文化財 救援事業報告

(財)文化財保護振興財団

## 表紙解説

### 東京駅（東京都千代田区丸の内）

撮影／三沢博昭

東京駅は、首都東京の中央停車場（セントラルステーション）として大正3年（1914）に竣工した。

中央停車場の建設計画は明治17年（1884）に既にあったが、その位置や形式等がなかなか決定しなかった。現在の駅舎の基本計画は、東京に高架鉄道をつくるため明治31年（1898）に招聘されたドイツ人フランツ・バルツァーにより考案された。日露戦争終了後、当時の我が国を代表する建築家辰野金吾の設計により、バルツァー案に改良・変更が加えられ、駅舎の建設が実現した。最大の変更点は意匠を洋風としたことで、バルツァー案の駅舎は和風の建物だった。ちなみに、赤煉瓦を基調に随所に白い花崗岩を用いる外観の意匠は、辰野が得意としたものである。

皇居と向き合う配置はバルツァーの考案で、写真は正面中央に設けられた皇室専用の出入口部分である。第二次世界大戦により三階部分を失っているが、皇居側からみる姿は首都東京の顔としての威厳を十分に保持している。

鉄道発達の歴史は、我が国の近代化を語るときに欠かせないもののひとつである。駅舎にはその歴史が刻まれている。  
(文化財保護部建造物課調査官 後藤 治)

## 編集後記

暑かった夏もそろそろ終わろうとしています。みなさんは何かいい思い出ができましたか。里帰りした人、海で真っ黒に日焼けした人、様々だと思いますが、私は大きな「財産」を得ることができました。新しい「仲間」という財産です。10日という短い間でしたが、船で生活をともにするという機会を得、そこで出会ったのが400人を超える初任の先生方でした。その中でも同じグループとして行動した22人の先生方に対しては、特別な思いがあります。職場でのそれぞれの悩みを打ち明けたり、まじめに議論したり、運動会を行ったり、酒を飲んだり、日が経つにつれて、まるで何年も前から知っているようなそんな「仲間」へと成長していくことができました。

それぞれ個性的で、すばらしい感性を持った先生たちは、これからいろいろな経験をして、さらにたくましくなっていくのだろうと思います。私自身も先生方から多くのことを学んだこの10日間の経験を大切に、努力していこうと思います。

この夏を「特別な夏」に変えてくれた先生たち、ありがとう。またいつか会えることを楽しみにしています。(♣)

## 文化庁月報 9月号(通巻336号)

平成8年9月25日印刷・発行

### 編集—文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2

### 発行—株式会社ぎょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03(3571)2126

販売 03(5349)6666

振替口座 00190-0-161

### 印刷所—(株)行政学会印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価530円（本体515円）送料76円

年間購読料6360円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

### 広告の問い合わせ・申し込み先

(株)ぎょうせい営業第一課宣伝係

電話03(5349)6657（ダイヤルイン）

©1996 Printed in Japan

ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。